

## 巻頭言

# コロナ後の「令和」に相応しい国・まち

芝浦工業大学客員教授

谷口 博昭



### はじめに

私は、和歌山市に生まれ高校卒業後大学、社会人としての千葉県、東京都、茨城県、大阪府、静岡県、愛知県での転居を経て現在東京都居住が30年を数えるに至っていますが、“故郷忘じがたく候”の念は消えることはありません。和歌山が持続的発展を遂げることを祈念し、国・まちについて日頃思い考えていることを以下に記します。

### 1. コロナ後のパラダイムシフト、自然との共生&ワークからライフへ

昨年は熊本豪雨等の災害もありましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に明け暮れた一年でした。新年の今も、働き方改革と共にマスク着用、手洗い消毒、三密回避等の徹底を基本とするWITHコロナの新たな日常が求められる。感染の全体像と収束の出口戦略を示すことが急務だが、国民の将来不安を解消するためコロナ後の生活経済社会再生の全体俯瞰図＝ビッグピクチャーを示すことが肝要である。ひと・モノ・カネがシームレスに移動し、少子高齢化・人口減少が進展する大きな変化の時代、バイデ

ン大統領の訴える「分断」を「癒す時」、グテーレス国連事務総長が訴える「地球を癒す時」です。これまでの延長上でないパラダイムシフトが欠かせない。

新型コロナウイルス感染対策は初期対応に問題があり緩慢な措置に留まった国が多くパンデミックとなった。その背景にあった自国ファーストによる対立からグローバルな協調へのパラダイムシフトが求められる。感染対策においても、国と都道府県知事、感染症・公衆衛生と医療の協調が欠かせない。加えてコロナ感染は野生動物の生息域減少が誘因と推測され自然保全が欠かせない。自然と対峙することなく自然の中に身を置き自然と一体となり生かされている自己を悟り、自然や他者と共に生きる共生（ともいき）の価値観が醸成され、菅総理が標榜された「自助・共助・公助、そして絆」形成に繋がります。

次に、マネーや効率偏重経済から安全や健康重視生活への転換です。経済が疲弊し失業すれば生活が成り立たない面があるが、ワークからライフ優先への転換、安全で健康なライフがあって新たな価値を創造し得るワークが成り立

つとの認識が肝要だ。文明的且つ文化的な豊かさを尊重する「ウエルビーイング」や白浜でも取り組んでいる「ワーケーション」の進展が期待される。

## 2. 分散型国土形成へ、「国土強靱化」と「地方創生」のさらなる推進

首都直下地震や南海トラフ地震に加え東京はじめ大都市の人口集中の脆弱性を顕在させたコロナ感染等による災害のリスクを回避する分散型国土構造を図ることが急務であり、「国土強靱化」の加速が求められる。令和2年度で終了する「防災・減災、国土強靱化のための3カ年緊急対策」に代わり、事業規模が7兆円から15兆円に拡大、5カ年に延長する加速対策が閣議決定された。「国土強靱化」加速に際し、南北3千キロの亜寒帯から亜熱帯までの多様な気候風土の中で暮らしてきた地域の自然、歴史・文化、智慧を活かすことが求められる。故に、地方自治体の総合計画や都市計画との整合性を図り、画一的でない地域に応じた肌理細やかで効果的な国土強靱化地域計画の策定が欠かせない。

ここに、過度な東京一極集中を解消し“国土の均衡ある発展”を図るため、「国土強靱化」と理念を共有する「地方創生」の推進が求められるが、今一迫力に欠ける。テレワークの進展等により東京都転出超過が続いているとの報道がある。また、万葉集からの出典の「令和」は、四季折々の花鳥風月や山紫水明の自然豊かな地方を尊重することを論じており、「地方創生」の一層の強化・加速が欠かせない。

「地方創生」は「まち・ひと・しごと」の調和の取れた創生が肝要だ。改定された総合戦略で提案の「関係人口」を経て「交流人口」から「定住人口」に繋げ渦巻き状に進展するが期待される。この際、交流を促進する情報通信網と陸海空広域交通網の整備が欠かせない。また、「地方創生」はオンリーワンの地域特性により

大都市や他地域との競争に打ち勝つことが肝要であり、メニューありきでなく効果的な戦略プロジェクトに対し行政区域に拘らずに支援する柔軟性を期待したい。併せて、東京がグローバルな競争に勝ち残るべく諸環境を改善し、東京と地方との連携・交流により相互互惠となり、国全体が「創生」することを期待したい。

## 3. 和歌山の地域資源を活かした「地方創生」

人口減少時代、他地域との差別化を図り「地方創生」を加速するためには、自然景観、歴史文化や伝統の技を尊重すると共に量から質へ、モノからコト・サービスへの転換を図り、未来志向で地域資源を磨き活かし付加価値を創造することが肝要である。和歌の神「衣通姫尊（そとおりひめのみこと）」は「玉津島神社」に祀られ、片男波にある万葉館には、県内を旅した107首が残されている。世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を辿れば、山、川、海の自然景観とその産物は有数、温泉もあり観光資源が豊富であることが実感できる。県誕生150年記念の「紀の国わかやま文化祭2021～山青し海青し文化は輝く～」の様な地域の文化資源活用が期待される。また、串本町で建設中の「スペースポート紀伊」は時代をリードするプロジェクトとして期待される。この際、雇用と定住を勘案し、IT（情報技術）活用に凭れ過ぎずに「地産地消」の理念の下、地域に根差したサービス産業や農林水産業と共に地域の安全・安心と雇用・経済を支える地場産業や社会福祉事業を然るべき評価し活用することを望みたい。

今年の干支「辛丑」は新しき芽生えを見出す年。産学官、老若男女が、郷土愛を共有し、自らの地域・まちは自らのチエと力で守り良くするとの決意を持って、幾多の失敗に諦めず乗り越え、優れた地域特性を磨き活かし魅力あふれる県土へと前進する芽生えの年となることを祈念する。